



第16号

平成25年5月10日
発行 塾長 上谷 恭範
〒111-0052
台東区柳橋1-26-3
TEL 03(3862)9218

特集「アナログvsデジタル？」

ここ数年で、非常にデジタル製品は進歩し、一般の使用に十分応えられるようになってきました。

当塾内でも、やはり電子辞書を持ってきたり、また、スマートフォンを活用して字引等調べ物をする姿もちらほらと見かけるようになっていきます。

また、私もすぐに調べたいことがあると、インターネットで検索をかけて(ググって)、とりあえずの知識を得ることはよくあります。

それでは、旧来の紙媒体(新聞・辞書・書籍等)は不要になってしまったのでしょうか？

そこで、今回の塾報では、アナログとデジタルについて考えていきたいと思います。



紙の辞書のいいところ

御厨 裕貴

電子辞書の利点としては、携帯性の高さ、検索の速さにあります。これが決定的な違いでしょう。(昔であれば、例文が少ない、画面が小さくて読みづらい、自分の調べ方と合ってなくて調べにくいなどといった欠点もあったのですが、現時点ではおおむね解決しているように感じます。)

紙の辞書だと、単語数が増えればその分重くぶ厚くなり、検索するのに時間がかかってしまいます。

そもそも辞書に求められる仕事は、「知りたい単語を調べる」ことなので、求める単語を最速で調べられる電子辞書の方が圧倒的に良いと感じるのは当然だと思います。

しかし、私は紙の辞書を勧めたいと思います。なぜなら、紙の辞書では「調べる単語を意識した状態で辞書をめくって探す(探さなくてはならない)」ことで、単語の記憶定着が狙えるという利点があります。

また、個人的な感覚として、皆様はぺらぺらとページをめくっているうちに、ある単語にふっと目が行くことや、別の気になっていた単語を思い出し出してつい調べてしまったなどという事はないでしょうか。調べる時間が長いために、別の単語に目が行ってしまう(こう書いてしまうと集中力がありませんかと思われ)てしまいがちですが、その結果として、目的とは異なる単語も併せて知ることが出来る。これも紙の辞書の利点ではないかと思えます。

もう一つあるとすれば、紙の辞書に触れる機会はまだまだ日常として存在するという事です。

図書館等で調べ物をする場合、一部の図書館では電子化が進んでいるといっても、まだ、紙の辞書を使用する事になります。

他にも国語辞典や英和辞典などといったメジャーなものならともかく、専門性の高い辞書になると、電子化が及んでおらず、紙媒体の物が残っています。

こういった辞書を引くためのルールを知るためにも紙の辞書に慣れておく必要があります。

以上の点から、私は、塾生には学生のうちは、紙の辞書を使用して欲しいと思っています。

なぜなら？ ロボット教室

ロボット教室一同

修明学園では、ヒューマンキッズサイエンス ロボット教室を浅草橋・高砂・番町の3教室で5月より開講します。毎月90分2回の授業で、さまざまなブロックを使用し各月決められたロボットを製作し、改造し、工夫する楽しい講座です。

ロボット教室は、「子ども達に驚きと感動を与える教育」をコンセプトに開発されました。ロボット製作を通じて驚きと感動を経験し、知的好奇心をより一層強くします。やがてそれは自発的な学習に繋がります。どんどん理科好きへと変わっていきます。その際には、楽しみながら格好良いロボットが作れる教材を使用し、様々な学びや感性を養える授業となっています。

ロボット教室で使用するロボットキットを設計・監修したのは、ロビやエボルタで話題の世界的なロボットクリエイターである高橋智隆先生です。高橋先生監修のオリジナルブロックと電気部品、ギアなどのオリジナルロボットパーツを組み合わせ、子ども達は楽しくて格好良いロボットを制作します。子ども達は知らず知らずのうちに論理的思考力や空間認識能力を身につけていきます。

浅草橋・番町教室では神保、高砂教室では佐藤が、子ども達のロボット製作リーダーとして、自分で考えるようコーチングしながら、集中力を引き出し、達成感を得られるような楽しい授業を工夫していきます。

子ども達にはロボット教室をとことん楽しんでもらい、毎授業思い出に残るようにしてもらいたいです。そして子ども達が将来の日本のもの作りや科学発展の担い手に成長してくれることを願っております。

ロボット教室授業日程

浅草橋教室

第2・第4土曜 13:00
第2・第4火曜 16:30

高砂教室

第1・第3 土曜 13:00
第1・第3火・水曜 16:30

番町教室

第2・第4日曜
10:00 13:00 15:00

内容等、ご質問が
ございましたら
修明塾 本部事務局まで
(03-3862-9218)



英語学習における電子辞書の功罪？

上谷 修一郎

今や中高生の持つ英語の辞書の大半は紙の辞書ではなく電子辞書になってしまったという話を耳にする。未だに300ページ近くある研究社の英和辞典を携行する私にとっては信じられない気もするが、当の学生にとってはすれば筆者のような人間にこそ顕著なアナクロニズムを感じるのだろう。私は今更使っている紙の辞書から電子辞書への全面的な移行を試みるつもりは更々ないのだが、他方で学生の現状における電子辞書の使用を殊更に非難するつもりも又ない。問題は紙の辞書か電子辞書か、アナログかデジタルかという二項対立にあるというよりは電子辞書の特性を使いきれしていない学生の思考力の欠如にあると言ったほうが適切であるように思えるからだ。

最近の電子辞書は大変便利になっており、単なる携帯上の便宜性にとどまらず複数の辞書の大量の情報を収録している。紙の辞書の優位性と捉えられてきた単語の例文、語法、類語解説、日英比較等の情報も電子辞書によって検索可能である。この点からすれば電子辞書が紙の辞書に劣っている点はないやないといっても過言ではないのだが、実際にはほとんどの学生は電子辞書において検索するのは最初の見出しとなる一語一語の訳語のみである。大概その背景にある情報まで調べようとはしない。訳語が文脈に対応しているかどうかの確認をせずに正確に英語の文章を訳せるはずもないのだが、面倒であると感ずるのかその単語の例文や語法について確かめる作業をしないのである。

この著しいまでの思考力の欠如こそがインターネットによる情報社会の生み出した大きな弊害といえるだろう。Googleで調べた単語を検索すれば無数の情報をインターネットでは獲得する事ができる。その情報を得るまでのプロセスはワンクリックによる瞬間的なものでそこには何らの思考の余地はない。そのプロセスに慣れれば慣れるほど玉石混交であるはずの情報の真偽性を確かめようとする感覚が麻痺してくるのである。結局のところどんなメディアを媒介するにせよ情報を適正に活用するために必要なものはそれを解釈する人間の思考のフレームワークであると言つてよい。そのフレームワークを磨こうとしない限りは大量の情報に波に呑まれるまま翻弄されてしまうことになるだろう。

電子辞書についても同様なことが言える。その大量の情報をいかに活用するかはそのひと個人の思考力に掛かっているからである。繰り返すが問題は紙の辞書か電子辞書か、アナログかデジタルかの二項対立ではない。どちらの辞書であれ使いこなせるだけの思考の解釈枠組みを身に着けようとする意志と能力を持ち合わせているかどうかなのである。



進む教育のデジタル化

出井 寛太

教育のデジタル化が進んでいる。デジタル教科書（＝電子教科書。タブレット型端末にデータを取り込んで利用する教科書のこと）は様々な国で普及しており、日本でも、2020年までにすべての小中学生にデジタル教科書を配布することを、政府が目標として掲げている。モデル校を指定し、デジタル教科書の学習効果を検証する「フューチャースクール推進事業」が始まっており、デジタル教科書やその他のデジタル教材がこれから身近になっていくだろう。

デジタル教科書の主な長所は、映像によってリアルな情報に触れられる事、次は分からない事があつたらその場でネット検索し、答えを導き出せることである。前者は子供達の知的好奇心に訴えかけ、やる気を引き出す効果がある。そして後者は、子供たち自身が答えを見つけようとする事で、自ら授業を進めていくという生徒発信型の授業が期待できる。

次にデジタル教科書の短所を挙げたい。まず、インターネットに接続したとき、有害サイトへつながってしまうかもしれないという点が気がかりだ、という声がある。この場合、学校や家庭での一定のルール作りが必要であろう。また、インターネットを使う以上、個人情報保護という問題と直面せざるを得ない。過去のニュース記事を見ても、個人情報漏洩の事件は枚挙に暇がないほどであり、セキュリティには最大限の注意を払うことが求められる。その他に、健康面での懸念がある。

特に、教科書のデジタル化について概要を述べた。論点はまだまだ尽きないが、スペースが限られているので、こまめにしたい。左に参考にした記事や書籍を掲載したので、興味がある方は是非ご一読頂ければと思う。

- (参考資料)
- ①小川克彦「デジタルな生活 ICTがデザインする空間と意識」NTT出版
 - ②田原総一郎「デジタル教育は日本を滅ぼす」ポプラ社
 - ③「電子教科書を使用した教育の展望」田中班
<http://ohst.jp/dnu/wp-content/uploads/2011/12/31c2a53a61c1dce8d8151d201b8e56a61.docx>
 - ④「日本の教育 ICT ハードウェア市場、2016年に1,038億円になると予想」前田有香
<http://resemom.jp/article/2012/06/04/7998.html>
 - ⑤「家庭でどう取り入れる？デジタル教材」赤堀侃司
<http://benesse.jp/blog/20121019/pl.html>
 - ⑥「子どもの自立を支援するデジタル教材の可能性」赤堀侃司
<http://benesse.jp/berd/focus/1-digital/activity1/index.shtml>

読み取る力を

金子 義一

人は、怠惰であり忘れやすい生き物である。二〇一一年三月十一日、あの日の守られるのが当然と思っていたことが、ことごとく裏切られた。帰宅困難、通信障害、そして自然の脅威、すべてがリセットされた。しかし過去の教訓を活かし、新しい策を作りつつある。

それは、それで結構なことだが、誰もが同じ目標に向っているわけではない。ある者は快楽のみを求め、努力を忘れ、他人任せの人生を送りつつある。生活の利便さを自分で見つけなければ皆が皆クロニ化するのではなからうか？ ネットの情報を見るだけでなく、活用できる能力を持つことが一番である。それには調べる力、読み取る力が必要であり、また五感をフル活用し自分自身の考え方を身につけるべきである。

5月の予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 5月中旬～下旬 公立・私立中学生
「1学期中間テスト対策講座」
- 5月26日(日) 幼児英才教室(本部浅草橋) 無料公開レッスン
11:00～12:00 3歳児・年少児 3組まで
<体験+説明会>
13:00～14:00 年中児・年長児 6組まで
<体験+無料知能体験+説明会>
- 6月1日(土) 漢字検定(準会場実施 第一回)